

## 第60回新潟県児童生徒科学研究発表会

### 小林茜里さん(松之山中2年) 3年連続県知事賞

#### トノサマガエルを通して人と自然の共生探る

第60回新潟県児童生徒科学研究発表会「いきいきわくわく科学賞2024」表彰式が12月21日(出)、新潟市で開かれ、まつのやま学園8年生(松之山中2年)の小林茜里(あかり)さんが3年連続となる県知事賞受賞の快挙に輝いた。

茜里さんは、絶滅危惧種のトノサマガエルをテーマに更に研究を深めた。昨年の研究では、トノサマガエルなど吸盤をもたないカエルがコンクリート製の水路に多数落下していることから、実験の結果、吸盤のないカエルは垂直の壁を登れないことを明らかにした。今年も、昨年検証できなかったジャンプ力などに注目して、観察・実験を行った



県知事賞に輝いた小林茜里さん

のと同時に、水路を製造している企業に相談し、落下したカエルが脱出可能な装置の開発やその効果を調べた。ジャンプ力の小さい上陸直後の個体は特にコンクリート水路の影響を受けやすいことや、水路に脱出装置を設置することで脱出率を上昇させることなど、新たな可能性を導き出した。茜里さんは「3年連続で県知事賞をいただくことができ大変光栄です。小学生の頃から大好きなトノサマガエルが絶滅危惧種になった理由をお米作りの変化と関連付けて研究しています。効率的なお米作りと生物多様性保全の両立の課題を実感し、人と自然と共生できる方法を探る大切さを学びました」と喜びをコメントした。